

# 研究所だより

編集・発行

千葉県長生地方教育研究所

茂原市東郷2300-1

TEL 0475 (24) 9721・FAX 0475 (23) 4820

H P <http://www.choseikaikan.or.jp/>メール [kenkyujo@beach.ocn.ne.jp](mailto:kenkyujo@beach.ocn.ne.jp)

## 「学校における危機管理について」

千葉県教育庁東上総教育事務所

指導主事 冨永裕之

### 1 はじめに

令和元年9月29日に南房総市役所へ災害支援に行った。館山自動車道を降りると、ブルーシートの屋根と鉄骨がむき出しになった建物が目に飛び込んできた。南房総市役所の隣にある富浦中学校の体育館も屋根や壁がなくなっていた。災害で避難所になるはずの建物が無残な姿になっていた。1カ月後の房総豪雨では、10月の1カ月分の雨量が半日で降る記録的豪雨になり、東上総教育事務所はもとより避難所だった茂原市中央公民館までが浸水した。その1カ月後には、中国武漢で新型コロナウイルス感染症の初発症があった。見えない敵との戦いがスタートした。「想定外」とか「記録的」という言葉がどれだけ身近で次々に出てきたことか。このように変化が激しく、新しい未知の課題に試行錯誤しながらも対応することが求められる複雑で難しい時代を担う子供たちにとって、必要とされるのが「生きる力」の育成である。「生きる力」を着実に育んでいくためには、学校における組織的な安全管理の充実を図り、安全で安心な学校環境を整備する。また、児童生徒がいかなる状況下でも自らの命を守り抜き、安全で安心な生活や社会を実現するために主体的に行動する態度を育成する安全教育を一層推進することが大切である。

### 2 危機意識を持つ

私たち教職員は、児童生徒の心身の安全を脅かす全てを「危機」と捉え、教育活動のあらゆる場面で、危機はいつでも起こりうるという認識に立つ必要がある。東日本大震災や昨年の房総豪雨を思い出してほしい。私たちは、目の前に危険が迫ってくるまで「たいしたことはないはず」「自分だけは大丈夫」と考えてしまい、その危険を認めようとしなない心理傾向があった。これを「正常化の偏見」といい、目の前に危険が迫ってくるまで、その危険を認めようとしなない人間の災害時の心理を表している。しかし、このことが、事件・事故の発生の要因となったり、被害を拡大したりすることにつながるものが少なくない。先生方が学校で、児童生徒と過ごしていて、大きな事故にならないまでも、安全に関してヒヤリ・ハッとした経験があるかと思う。児童生徒を預かる私たちは、目前の子供たちに対し「危険があるかもしれない」「事故が起こるかもしれない」と常に危機意識を持って、安全管理に努めていかなければならない。

### 3 危機管理について

児童生徒の安全を守るために、今一度確認してほしい。

- ①安全な環境を整備し、事件や事故、災害の発生を未然に防ぐための事前の危機管理。
- ②事件や事故、災害の発生時に適切かつ迅速に対処し、被害を最小限に抑える発生時の危機管理。
- ③危機が一旦収まった後、心のケアや授業再開など通常の学校生活の再開を図るとともに、再発の防止を図る

ための事後の危機管理。

### 4 安全点検について

学校が最も安全で安心な環境であるために行われるのが安全点検である。安全点検は、定期的に、臨時に、日常的に場所や状況に応じて実施するように定められている。コロナ禍で、消毒という新たな作業も加わり大変だが、危険な状態を見落とすわけにはいかない。「見て、触って、動かして」そして「負荷を加えて」の安全点検の実践が大切である。

### 5 危機管理マニュアルについて

次に、事件や事故の発生時の対応である。大切なのは冷静かつ迅速な初動体制である。児童生徒の安全確保を第一として、教職員の連携はもちろんのこと、警察や医療機関など関係機関との連携が重要である。また、被害にあった児童生徒、保護者の心情に配慮し、誠意をもって向き合うことも大切である。学校保健安全法第29条で、危機管理対処要領を定めることになっている。いわゆる危機管理マニュアルである。新型コロナウイルスの対応マニュアルはあるだろうか？感染者が発生した場合や濃厚接触者が出た場合の初動対応、行動記録、接触者リスト、保護者宛て連絡メールや文書、記者会見の流れなどをToDoリストにしてある学校もある。

### 6 安全教育について

昨年の房総豪雨で道路上に水没している車がたくさんあった。急がないといけない用事があったのだろうか。大丈夫だと思ったのだろうか。この判断が生死を分ける場合がある。いかなる状況下でも自らの命を守りぬく、この部分を指導するのが安全教育である。文部科学省から出されている「『生きる力』を育む学校での安全教育」によると防災教育は、ねらいによって取り扱う場が安全学習と安全指導に分かれる。これまで防災教育の中心として行ってきた学級活動や学校行事を通して、これからはしっかりと計画的そして系統的に指導していくことが大切である。それ以外の教科でも視点を変えることで安全教育としての学習を行うことができる。私たち教職員が安全の意識を持つことで、これまでの教科の学習が安全教育として再構築される。

### 7 おわりに

この1年で、学校を取り巻く環境は大きく変わった。新型コロナウイルス感染対策ガイドラインやQ&A、学校の新しい生活様式などが次々と更新されたが、日々の取り組みについては、各学校の独自性に任されている。予測困難な時代を乗り越えていくために、私たち教職員が団結して、正しく捉え、適切に考え、着実な行動をとり続けていきたいと思います！



## 子供と保護者に寄り添う教職員

千葉県子どもと親のサポートセンター  
研究指導主事 見 富 浩 章

### 1 はじめに

「子どもと親のサポートセンター」は、平成14年4月に設立された千葉県教育委員会における唯一の教育相談機関です。教育相談部と支援事業部、2つの部からなり、主に、相談、支援、研修、調査研究の4事業を行っています。

そのうち、令和元年度に教育相談部に寄せられた相談件数は下図のようになっています。

相談の現状(令和元年度)	
相談方法	件数
電話相談	9,229件
来所(面接)相談	5,096件
FAX相談	0件
メール相談	177件
相談合計	14,502件

3月は新型コロナウイルスへの対応のため、来所相談中止。電話相談、メール相談も休校の影響により減少。

一つの相談機関に寄せられたこの相談件数について、どのようにお感じになりましたか。お分かりいただきたいのは、これほどたくさんの保護者や子供たちが、不安を感じ、聴いてほしいことがあるということです。

### 2 寄せられる相談からわかってきたこと

学校で「話を聴いてもらえなかった」、「対応してもらえなかった」と感じている保護者が多いことに驚かされました。

「しっかりと聴いている」「きちんと対応している」という方も多くいらっしゃいます。しかし、相談者が「話を聴いてもらえなかった」と考えた背景には、教職員との間に何らかの意識の差があったのでしょうか。もちろん、相談の中には教職員への感謝の言葉もあります。一見、同じような対応をしていたとしても、相談者の受け取り方は様々です。時には、保護者や子供が不安に思ったことを、教職員が「これくらい」と思い込みで判断し、きちんと受け止められなかったことで、不安を大きくしてしまったということはないでしょうか。

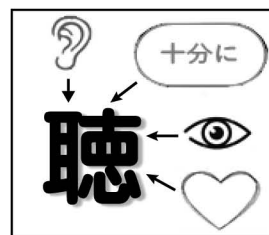
気持ちを理解し、互いの意識の差を生まない関わりが大切です。その差をなくしていくために、どのような関わり方をしたらよいのでしょうか。

### 3 共感し、寄り添う姿勢

「聴いてもらえた」と感じてもらえる「聴き方」や「具体的な対応」ができていれば、保護者が不満に感じることはなかったのではないのでしょうか。保護者は、学校に不安な気持ちや事実、実態を「分かしてほしい」と願っています。また、一緒に考え、関わってほしいと強く望んでいます。

そのためには、事実だけではなく、感情にも焦点をあて、相手の話を最後まで丁寧に聴く姿勢が大切です。聴いてもらえたと感じた相談者は、安心感、満足感、喜び等を得ることができます。その感情の交流から生まれるものが「信頼」です。人は、納得してはじめて変化を受け容れます。信頼関係の上で、改善策の検討を促すことが解決への糸口とつながっていくはずですが。

『傾聴』というカウンセリングの技法があります。「聴」は、「耳と目と心で十分に」と書きます。相手の話すことに共感し、寄り添うような聴き方を心がけてみてください。



### 4 子供の困り感に寄り添う

集団生活を送る学校ですが、同時に個への視点を持った温かな関わりが求められます。

教室の中には、よく問題行動を起こす子供がいます。問題行動の原因には、環境的な要因の他、発達特性によるものが少なくないことはご存じでしょうか。その子供自身が一番悩み、苦しんでいるのかもしれませんが。視点を変え、言動を振り返ることで、子供の困り感に気づけることもあります。

### 5 子供との信頼関係の築き方

子供は、信頼できる大人を探しています。「この人なら信頼できる」「相談してみよう」と思える大人とは、どういった姿の人でしょうか。考えられる姿をいくつか挙げてみます。」

- 言行一致… 発言と実際の行動に矛盾がない
- 謙 虚… 子供からも学ぼうという姿勢
- 誠 実… 真心があり、まじめ
- 約束厳守… 子供との約束を必ず守る
- 察 する… 変化に気づき、声をかける
- 是々非々の指導… 良いことは良い、悪いことは悪いと、根拠を明確に説明できる
- 本 気… 真剣に向き合い、接する
- 勇気づける… 一歩を踏み出す後押しや支え

子供と教職員の関係は、「日常」が基本です。何気ない一日一日の生活の中での関わりが、人間関係構築のベースとなり、信頼関係を育みます。また、子供からの信頼が、保護者の信頼へとつながっていくのは、みなさんも経験されている通りです。

### 6 おわりに

コロナ禍の中、子供たちの安全を守るため、先生方は3密を避ける学校生活を考え工夫し、校内の消毒を行い、日々忙しく過ごされていることと思います。「心にゆとりを」といっても、難しい状況かもしれません。

しかし、「すべては子供たちのために」。じっくりと子供に向き合う姿勢を常に心がけ、今しかない子供との貴重な時間を共有してみてください。

# 令和元年度千葉県長期研修生 研究報告

今年度は、長期研修生の研究成果を地域に還元・共有するための場である研究発表会が中止となりました。つきましては、昨年度の4名の長期研修生の方々の研究の概要を紙面にて紹介します。



## 適切な行動を増やし、問題となる行動を減少させる支援について ～ABC分析の考え方を取り入れたリーフレットの作成・活用を通して～ 茂原市立萩原小学校 教諭 鈴木 あやか

**困った行動のなかにこそ支援のヒントは隠されている!**

子どもたちの困った行動・気になる行動の捉え方、解決するヒントを得るためのポイントを検討します

5分ご読める

さっそくですが…

発達障害の傾向があるAさん。授業中にパニックを起こし、泣き叫ぶことが多くあります。「授業が中断することもあるし、周りの子へも迷惑がかかってしまう…Aさんの学習も遅れてしまうし…」担任の先生は困っています。

「どうしてパニックを起こすのかな? どういう支援をしていったらいいの?」

さて、みなさんならAさんのパニックの原因をどう考えますか?

発達障害の傾向があるし、あんな子だから仕方ないかな…

月曜だし、天気も良くないし…気持ちの問題かな

**ちょっと待って!!**

人の行動には必ず理由があります。その行動の理由に焦点を当て、行動の支援と環境の整備をすることで、子どもの行動を変えていくことができます。その行動の中にこそ、支援のヒントは隠されているのです。そこで、ここではABCのフレームで子どもの行動をとらえ、支援を考えていきます。

ABCのフレームって?

A 先行事象 → B 行動 → C 後続事象

子どもの困った行動をこの3つのフレームで考えると行動の原因、支援の方策を探ることができます。Aさんの事例を基に考えていきましょう。

図1 リーフレット(表紙)

### 1 研究主題について

発達障害等の特別な教育的支援を必要とする児童の問題となる行動については、適切な支援が提供できないことにより、不適切な行動の増加、学習参加の妨げに至ってしまうことがある。そこで、できないことに目を向けるのではなく、行動やその背景を分析して、児童の気持ちに寄り添いながら、「できる」を増やすことで問題となる行動の減少につなげるABC分析を用いた支援を取り入れたいと考えた。

ABC分析の考え方を取り入れることで、行動の要因の把握や理解が進み、適切な行動を増やすためのより具体的な支援が可能になると考え、本主題を設定した。

### 2 ABC分析とは

ABC分析とは、問題となる行動を分析し、分析に基づいた行動の支援と環境の整備を行うことで解決に導いていく機能的アセスメントである。例えば、「何がきっかけでパニックを起こしたのか(A→B)」「パニックを起こした結果、どのようなことが起こったのか(B→C)」「このことが繰り返された結果、その問題となる

行動は増えたのか、あるいは減ったのか(C→B)」このように分析し、ABCそれぞれに方略を検討することで具体的で適切な支援を可能にする。



図2 ABC分析について

### 3 研究の実際

(1) リーフレットの作成  
ABC分析の考え方を分かりやすく伝えるためのリーフレット(図1)を作成した。

(2) 事例研究  
①改善したい行動の見取り方と分析方法  
通常の学級は筆者による観察、特別支援学級はビデオ撮影による観察を5日間行った。

②行動の分析・支援の検討  
行動分析・支援デザインシート(図3)を用いて筆者と担任により、行動の分析と支援の検討を行った。

③支援の介入による有効性の考察  
検討した支援を行い、5日間、改善したい行動を記録し、考察した。

行動前の事象 A	気になる問題となる行動 B	行動後の事象 C
<ul style="list-style-type: none"> <li>課題が難しい</li> <li>やりたくない</li> <li>興味をもてない</li> <li>「書くこと」に対しての苦しさ、抵抗</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>離席をし、好きなことをしている</li> <li>離席をしない場合でも45分間何もしないことが多い</li> <li>学習用具を出さない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>やらなくて済む</li> <li>好きなことをやっている</li> </ul>
<p>望ましい行動が起こりやすくなる工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学級全体で授業中のルールを確認する</li> <li>座席の変更(中央寄り前方)</li> <li>担任と話し合い、やることを本人が選択する(約束も含む)</li> <li>※いくつかの選択肢を教員側が提案し、児童に選択決定をさせる</li> </ul>	<p>望ましい行動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自席に座り、自分のできる課題をやる</li> </ul> <p>それでも起きてしまったとき</p>	<p>ほめ方・楽しみな行動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>できたことをすぐに認める、褒める(側に行き、目を見て、スキップをしながら)</li> <li>がんばりカードでの称賛</li> </ul> <p>起きてしまったときの対応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>言葉をかけて約束の確認をする</li> </ul>

図3 行動分析・支援デザインシートの例

### 4 研究のまとめ

通常の学級の担任でも活用しやすい簡便なリーフレットを作成したことで、ABC分析への理解が深まり、行動の理由を考えた個に応じた支援の検討と支援ができ、児童の適切な行動の増加と問題となる行動の減少につながった。

しかし、学級担任が一人で分析から支援の検討を行うことは現時点では限界があるため、アドバイザー的存在も含め、児童に関わる複数名で相談するなど、支援の多様性を図るようにしたい。また、通常の学級の集団の中でも無理なく活用していくために、学級的全児童に対し同時に行う学級全体への効果的な支援を考えていく必要もある。



## ふるさとのよさを実感しながら 郷土の音楽と主体的に関わる児童の育成を目指した指導の在り方 ～郷土の芸能を総合的に捉えた教材開発を通して～ 茂原市立東郷小学校 教諭 志田 輝 美

### I 研究主題について

これからの学校教育では、諸外国の人々の生活や文化を理解し尊重するとともに、我が国の文化や伝統に対する関心をさらに深め、理解し、大切にすることを育むことが求められている。

本研究では、児童が親しみを持ち、感性を働かせて味わうことのできる、身近な地域の伝統芸能に視点を置いた教材開発を行った。地域に伝わる獅子舞を、郷土の芸能として総合的に捉え、多面的・多角的に音楽と関わり、さらに鑑賞と音楽づくりとを関連させることで、児童が郷土の音楽に愛着を持ち、主体的に学習に臨むことができると考えた。

実践を通して、音楽に関する伝統や文化を尊重しながら、学習を深めることで、児童が感性を働かせて鑑賞し、他者と協働しながら音楽づくりを行うことができるであろうと考え、本主題を設定した。

### II 研究の実際

#### (1) 郷土の音楽を社会的・文化的な文脈で総合的に捉えた学習過程の構成

「日本伝統音楽のカリキュラム」に基づいた学習過程の構成を参考にし、音楽科「獅子舞とお囃子で思いを伝えよう」の学習と、「特別の教科道徳」や「総合的な学習の時間」を関連させた学習過程を構成した。地域に伝わる芸能や音楽がどのような背景で生まれたのか、それらを育んできたふるさとのよさや、伝承してきた人々の思いはどんなものか、その音楽を特徴付けている要素や仕組みはどういったものか、それらの音楽が他の媒体とどうかかわって発展してきたのかについて、「経験」「分析」「再経験」「評価」のステップで、音楽科とその他教科等を相互に関連付けながら授業を行った。

#### (2) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり

学習計画表や毎時間の学習の流れを提示し、児童が学習全体の見通しを持ち、題材全体で何を学ぶのか、どのような過程で学習を進めていくのかが明確になるような手立てを講じた。また、振り返りカードを活用したり、タブレットを用いて学習の記録を残したりすることで、児童が、学びを振り返り、次時の学習へ意欲をつなげられるようにした。

さらに、他者との関わりを通して、自分自身を振り返ることや見つめ直すことができるよう、グループ活動を通じた児童同士の対話、そして、地域人材を活用することで地域の方々との対話の場を大切に扱った。

主体的な音楽づくりの学習への手立てとしては、口唱歌を活用した。獅子舞のお囃子を児童が鑑賞したり、体験したりする際、口唱歌を記入した掲示物やワークシートを提示した。口唱歌を口ずさみ、ワークシートに記入しながら、リズムを考えたり、演奏したり、お囃子の構成を組み立てたりする活動に意欲的に取り組

む児童の姿が見られた。

#### (3) 鑑賞と音楽づくりを関連させた指導

鑑賞での気付きを音楽づくりに生かしていくことで、児童はより、その音楽の特徴やよさ、面白さに触れ、学習を深めていく。ICT機器を活用して、児童が必要なときに動画や音楽に触れることができる環境を設定し、郷土の音楽と何度も触れ合いながら鑑賞と言語活動との往還を行い、音楽づくりの学習へとつなげた。

### III 研究のまとめ

#### (1) 成果

- 「地域に伝わる音楽や芸能に関わってみたいと思うか」という質問の回答結果を、学習の事前と事後で比較した結果、事前には否定的な回答であった児童が、事後には肯定的な思いをもったことが分かった。地域に伝わる獅子舞を、歴史的・文化的な背景や保存会の方々の思い、獅子舞の衣装や動き、そしてお囃子の旋律やリズムからと総合的に捉えたことが、思いや意図をもった音楽づくりの活動へ、さらに地域の伝統芸能に主体的に関わろうとする態度を育てることにつながったことが示唆された。
- 事後調査より、学習に見通しをもたせるための手立てについて、約8割の児童が効果的であったと回答している。授業改善の視点をもった指導は、児童が自らの学びを調整することにつながったと言える。また、音楽づくりの手立てとして口唱歌を用い、音楽を可視化したことは、児童にとって無理なくリズムづくりができる有効な手立てであった。さらに、グループで「獅子舞」をつくる活動を通して、一人では難しいことも友達と協働して一つのものをつくりあげる達成感を感じさせることができた。
- 音楽づくりを学習活動に取り入れたことで、獅子舞保存会の方の演奏をより詳しく聴いたり、観察したりすることができた。鑑賞と音楽づくりを関連させることで、児童が思いや意図をもちながら音楽や動きを生み出す活動につなげることができた。

#### (2) 課題と今後の展望

- 音楽づくりの場面では、児童のアイディアを喚起するような手立てが必要だと感じる場面もあった。特に即興での旋律づくりにおいては、これまでの学習経験の積み重ねが十分でない、自分の思いを音楽として表現することは難しい。共通事項を窓口とした指導計画作成とともに、学年の系統性を意識した授業実践の積み重ねが必要である。
- 本研究では、5学年の題材として位置づけ、教科等横断的な学習過程を実践した。しかし、他学年での位置づけ、他教科等との関連性など、課題は多く残る。地域性を生かし、各学校が独自のカリキュラムを組んで実践を積み重ねていくことが重要である。今後は、長生地域に伝わる郷土の音楽の教材化を視野に入れ、本研究を継続して行っていきたい。



# 社会的事象を多面的・多角的に捉える力を育てる 社会科学学習の在り方

～地域素材「天然ガス」の教材開発を通して～  
茂原市立富士見中学校 教諭 村上 健 輔

## 1 研究主題について

グローバル化や生産年齢人口の減少などにより今の子どもたちが活躍する時代は社会構造や雇用環境などが大きく変化していくことが予想される。そのような時代の中で、子どもたちには様々な情報を見極め、多面的・多角的に物事を捉える力をもつことが求められている。そこで、4 学年「住みよいくらしをつくる」の発展的な学習として地域素材「天然ガス」を教材化することで、社会的事象を多面的・多角的に捉えることができると考え本主題を設定した。

## 2 教材設定の理由

本研究の教材は地域素材「天然ガス」である。学習指導要領の4 学年の内容には、「人々の健康や生活環境を支える事業」として飲料水、電気と並んで「ガス」が示されているが、選択して取り上げる内容であるため、教科書等の掲載は小さく、単元として扱うのは難しい。しかし、資源の少ない日本においては貴重な天然資源であり、長生地域は全国でも有数の埋蔵量と生産量を誇っている。茂原市でも古くから産出されていて上総堀りで井戸を掘って天然ガスを採取し、自家用として利用している家庭があるなど、生活に密着している。学校でも暖房には天然ガスを利用したガスストーブを使用している。また、副産物として産出され、レントゲンの造影剤などに使用されるヨウ素は世界2 位の生産量であり、その大半は千葉県産である。

このように、天然ガスが自分たちの地域や生活に様々な影響を与えていること、そして環境に優しい貴重な国産エネルギーであることを学ぶことで、自分たちが地域の良さを再発見していくことにつながり、地域に対し誇りと愛情をもつことができ、地域社会の一員としての自覚をもつことができると考えた。また、自分たちの身近にあった天然ガスが形を変えて、世界につながっていることを学ぶことで、物事を多面的・多角的に捉え、社会的な見方・考え方の育成にもつながると考える。



川から湧き出す天然ガス

## 3 多面的・多角的に捉えるとは

本研究では「多面的・多角的に捉える力」を次のように定義付けた。

**多面的**⇒一つの社会的事象のもつ様々な側面

**多角的**⇒その事象に関わる様々な立場からの視点

**捉える**⇒複数の社会的事象を比較し、相違点や共通点を見つけること  
学習事項同士のつながりを示すこと  
学習事項と自分とのつながりを意味付けすること

## 4 天然ガスにおける多面的・多角的な視点

貴重な天然資源であるとともに、工業の原材料や生活の燃料として使われてきた天然ガスには、多くの側面や人々の関わりがある。本研究では次のように教材としての天然ガスがもつ視点を整理した。単元計画にもこの視点を組み込み、意図的に示した。

視点	主 な 内 容		
多面的	歴史	<ul style="list-style-type: none"> <li>天然ガス開発の歴史</li> <li>近代産業の発展</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>開発に貢献した人物(千葉天夢)</li> <li>日本で初めての天然ガス事業化</li> </ul>
	自然	<ul style="list-style-type: none"> <li>南関東ガス田</li> <li>自噴の様子</li> <li>かん水</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国2位のカス産出量</li> <li>800年分の埋蔵量</li> </ul>
	産業工業	<ul style="list-style-type: none"> <li>採掘～生産～供給の流れ</li> <li>他市町村への流通</li> <li>茂原市の工業発展</li> <li>ヨウ素</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ガス井戸、ガスホルダーの仕組みや役割</li> <li>原料と燃料</li> <li>産業構造の変化</li> <li>真空管→ブラウン管→液晶パネルへの進展</li> </ul>
	安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>24時間体制の管理</li> <li>爆発、中毒の危険性への対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>付臭工程(臭い付け)</li> </ul>
	安定供給	<ul style="list-style-type: none"> <li>ネットワーク管理</li> <li>天然ガス以外のルート確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>パイプラインの複数ルート</li> </ul>
	環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヨウ素のリサイクル</li> <li>県との採掘協定</li> <li>硫黄分ほぼゼロ</li> <li>地盤沈下</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>かん水の地下への還元</li> <li>CO2排出が少ない</li> <li>熱量調整なして使用可</li> <li>パリ協定(温室効果ガス排出量制限)に向けての努力</li> </ul>
	生産者	<ul style="list-style-type: none"> <li>安心・安全への配慮</li> <li>クリーンエネルギー</li> <li>ヨウ素の国際協力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>安定供給の努力</li> <li>正しい理解を広めたい</li> </ul>
多角的	消費者	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な資源への気付き</li> <li>安全性への要望</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>経済性(ガス料金)</li> </ul>
	他地域とのつながり	<ul style="list-style-type: none"> <li>輸入LNG</li> <li>茂原から県内各地へ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生産工程の違い</li> <li>飲料水との相違点</li> </ul>
	海外とのつながり	<ul style="list-style-type: none"> <li>LNGの輸入</li> <li>ヨウ素の国際協力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>茂原長生地域の特殊性・希少性</li> <li>原料を輸出し製品を輸入(ヨウ素)</li> </ul>
	自家利用者	<ul style="list-style-type: none"> <li>ガス料金は無料</li> <li>近隣数件で維持・管理</li> <li>利用家庭の減少</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全面も自己管理</li> <li>管理費用(都市ガスとの違い)</li> <li>産出の不安定性</li> </ul>

## 5 まとめ

地域素材「天然ガス」を教材としたことで児童は多くの新たな視点を獲得し、今まで知らなかった茂原長生地域の様々な良さに気付き、さらなる理解と愛着を深めることができた。また、本単元は身近な地域から県内の他地域、海外へと徐々に視野を広げていくことができる。他地域と比較することで自分たちの住む地域を見つめ直すこともできる。このことから、身近な地域と県、県と全国をつなぐ学習としても期待できる。

今後、独立した単元として教育課程の中に位置付けられるよう、指導計画の見直しや評価規準の作成などを行っていくことが必要である。また、各市町村の社会科学副読本への掲載を目指すなど、さらなる教材研究を進めていきたい。



## 高学年における「相互理解、寛容」の心を育てる 道徳教育プログラム

～あなたとわたし「ちがうけど同じ」をみつけよう～

茂原市立本納小学校 教諭 佐藤 範子

### 1 研究主題について

「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編」（以下「解説」とする。）の中で、「様々な文化や価値観を背景とする人々と相互に尊重し合いながら生きること」が一層重要な課題であるとともに、この課題への対応として「多様な価値観の存在を認識しつつ、自ら感じ、考え、他者と対話し協働しながら、よりよい方向を目指す資質・能力を備えること」の重要性が示された。

グローバル化や変化の激しい経済情勢の中を生き抜く子供たちにとって、学校生活の中で「相互理解、寛容」の心を育成することが求められている。その要請に応じ、複数の内容項目や対象者（外国人、障害者、高齢者、友達）、他教科や体験活動等を取り入れた道徳教育プログラムを構成・実践した。相手の立場に立ち、謙虚な心を持ちながら、よりよい判断・行動のできる児童の育成を目指し、本主題を設定した。

### 2 研究目標

「相互理解、寛容」の心を育てるための、効果的な道徳教育プログラムを開発、実践し、その効果を明らかにする。

### 3 研究の概要（第5学年）

#### （1）内容項目「個性の伸長」（テーマ設定）

自分自身のよさや成長を感じ、他の人と自分の共通点や相違点を再確認した。

その学びを生かしながら「あなたとわたし『ちがうけど同じ』をみつけよう」というテーマを設定した。

#### （2）内容項目「国際理解、国際親善」

外国語補助講師に協力を依頼し、外国と日本の文化には共通点や相違点があることを知り、他国への理解を深めた。

その学びを生かしながら、日本と外国の文化（ピასに対する考え方の違い）に関する課題について、映像教材を活用して考えた。そして、外国の文化について理解することの大切さ、互いに話し合うことの必要性に気付いた。また、文化は違うが、文化を大切にしたいという思いは同じであることにも気付いた。

#### （3）内容項目「公正・公平」

特別支援学校の児童（以下Aさん）との、居住地校交流を視野に入れて活動を進めた。自分たちの学校と特別支援学校の校内の様子、行事、生活には共通点や相違点があることを知り、理解を深めた。

それらの学びを生かしながら、障害がある方との「公平」のありかたについて考えた。そして、障害について理解する（しようとする）ことの必要性和共に、特別扱いが大切なのではないこと、障害のある方の思いを聞く

ことや話し合うことが大切であることに気付いた。

その後、Aさんとの交流会に向けて、どのような活動を一緒に行いたいかが自分たちで計画し、当日は紙飛行機大会を共に楽しんだ。



#### （4）内容項目「親切、思いやり」



認知症について学んだり、車いす体験や高齢者体験を行ったりして、高齢者についての理解を深めた。

その学びを生かしながら、高齢者に対してどのように対応することがよりよい親切に

なるのか考えた。

高齢者の立場に立ったり、理解しているかを確認したり、高齢者が安心できるようにしたりすることも大切であることに気付いた。

#### （5）内容項目「友情、信頼」

友情を育むためには、相手を思う気持ちや信じる気持ちが大切であることを再確認した。また、伝え合い、聞き合うことでお互いの状況をより理解したり、受け入れたりすることができることに気づき、よりよい友情を育もうとする思いを高めた。

#### （6）プログラムの振り返り

これまでの活動を振り返り、どのような立場の方に対しても理解し合うことや尊重し合うこと、相手の立場になることの大切さを確認した。

### 4 研究の成果と課題

他教科や行事、体験活動と道徳科を関連させたことで、児童が対象者をより身近な存在として感じながら、多様な価値観に触れたり、様々な方の立場や気持ちについて考えたりすることができた。また、「相互理解、寛容」や、それに関連する「親切、思いやり」「友情、信頼」等の内容項目の理解を深めることができ、学んだことを実生活に生かしていこうとする意欲にもつながった。

今後は、様々な対象者に対して、学年ごとに重点を置いたり、学校全体で取り組んだりするなどカリキュラム・マネジメントの充実を図っていきたい。より広く、深い学びにつなげていくために、家庭との連携の方法についても検討していく必要があると考える。

詳細につきましては、千葉県総合教育センターHPの学習指導案等検索よりご覧いただけます。  
<https://www.ice.or.jp/nc/>

## 令和2年度千葉県長期研修生の活動



<理科>  
茂原市立緑ヶ丘小学校  
教諭 重村 英伸

### 生命を尊重する態度を育成する理科教育 ～「一人一飼育活動」を通して～

児童が生命を尊重する態度を身に付けることができるよう、その根底にある「生命観」の育成を目指し、理科の学習の中で一人が生き物一匹を育てる「一人一飼育活動」を行った。また、活動の検証材料として、児童の生命観を測る既存の「生命観測定尺度」を活用した。本来の調査で用いられている語句や質問数を変更して小学生向けに作成し直し、本校児童と、茂原市内の小学校児童を対象にして効果を検証した。

#### 生命観測定尺度とは

これまででは行動や感想等から分析していた児童の生命への考え方を数値として読み取ることができるよう開発されたもので、アンケート形式になっている。「生き物が産まれる姿に感動する」などの質問項目に対して「そう思う」度合いを1～4で表し、その合計値や平均値を割り出すことで、児童の心情の変容や活動の効果を客観的に分析することができる。

#### 実践活動の概要

##### (1) 第3学年「モンシロチョウの飼育」

児童が一人一つの卵をキャベツから採集するところからスタートし、蛹に触れて感触を確かめながら成長の様子を記録したり、蛹から成虫になる羽化の瞬間を観察したりしながら生命の不思議さや神秘さを感じることができた。



##### (2) 第4学年「カブトムシの飼育」

幼虫から飼育を行った。蛹になる蛹化や、成虫になる羽化など本来は土の中で見えない様子を間近で見られる形で観察した。また、家庭に持ち帰り、夜の活動の様子を調べたり、他の生物と比べたりすることで生命の多様性や共通性を見出すことができた。



##### (3) 第5学年「メダカとメダカの卵の飼育」

メダカを一人一匹飼育してグループで卵を産ませた。消毒液に浸かった受精卵と未受精卵にそれぞれ直に触れ、感触の違いを比べることで生命の始まりを実感することができた。また、自分の育てている卵の中で日々メダカの体ができていく様子に驚いていた。



#### 今後の方向性

現在、生命観測定尺度を使用した調査結果を集計し、分析を行っているが、飼育活動を行うことで、生命観の「命の価値」に関する調査項目に対して有意な高まりがみられた。今後、観察カードや感想文をもとにさらに分析を行っていきたい。



<理科>  
茂原市立東中学校  
教諭 齋藤 亮平

### 主体的・対話的で深い学びを実践するための 教材開発 ～「動物の体のつくりと働き」における 心臓モデルの開発～

本研究は中学校第2学年の生命領域「動物の体のつくりと働き」において教材開発を行った。この分野は、動物（ヒト）の体内についての学習であり、直接観察することが困難である。そこで、心臓に関するモデル教材を開発し、実体験を伴った学習を可能にし、学習内容や指導方法を工夫することで、生徒の主体的・対話的で深い学びを実現することを目指し、検証授業を行った。

#### 教材・教具の工夫

##### 1 二心房二心室血液循環型モデル (図1)

ピペットのシリコン球を心臓の心房や心室に見立て、観賞魚用のエアポンプに使用する逆流防止弁を心臓の弁として用いることで、心臓のポンプとしての働きと血液の循環を再現した。

##### 2 二心房二心室ガス交換観察モデル (図2)

肺に見立てた装置内に炭酸ナトリウムを入れ、大静脈から静脈血に見立てたフェノールフタレイン液（青色に着色）を注入し、肺を起点に赤色の動脈血に変化することを観察できるモデルを開発した。

##### 3 二心房一心室血液循環型モデル (図3)

両生類やハチュウ類の心臓を再現するために、二心房一心室血液循環型モデルを作製し、血液を循環させる中で、動脈血と静脈血が心室内で混ざってしまうことを生徒が考察できるように工夫した。

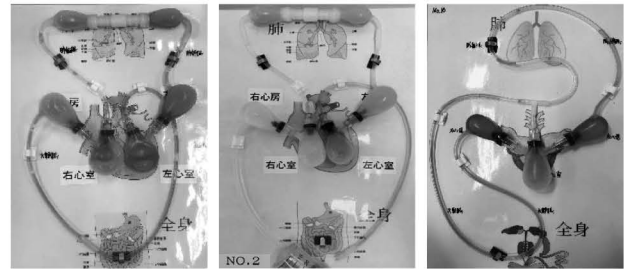


図1

図2

図3

#### 授業の様子

生徒は、心臓が自分のどこにどのような向きで入っているのかなどを班員の胸に当てながら考えを共有できていた。その後、自分たちの班で導き出した考えを電子黒板等を使って、他班にプレゼンテーションをするなど、班内での対話だけでなく、学級全体でも思考を深めることができた。

#### 今後の方向性

検証授業において実施した質問紙調査や授業で得られた記録データを統計処理やテキストマイニングを用いて分析し、生徒が主体的・対話的で深い学びをどの程度実践できていたのかを検証していく。また、本研究で活用した教材の作製方法や活用事例、指導案等を副読本にまとめ、長生管内の生徒並びに教職員に還元していきたい。

# 令和2年度千葉県長期研修生の活動



＜小学校外国語活動科＞  
茂原市立東郷小学校  
教諭 矢代 朋美

## 絵本を活用した効果的な指導法 ～児童が考えて発話する読み聞かせを 用いた授業を通して～

学習指導要領改訂により、中学年に外国語活動、高学年に外国語科が導入された。高学年になり、本格的に英語学習が始まった際の下支えとするために、中学年のうちに多くの語彙にふれておくことが必要である。

絵本は、絵や話から今までの知識や経験を思い浮かべやすく、内容理解に結びつけやすいという利点を持っている。加えて読み聞かせをすることで、文字と音、絵などの視覚的・聴覚的な情報を一度に与えることができ、中学年の児童に英語の語彙を増やすことが可能となる。絵本の読み聞かせを導入した授業を展開することで、子ども自身の知識と英語での表現を結びつけ、英語で発話しようとする児童の育成を目指し、本主題を設定した。

### 研究目標

外国語活動において、読み手とのやりとりを導入した絵本の読み聞かせを取り入れた学習を行うことで、英語表現と内容理解との結びつきを強め、英語の発話数を増やすことを目指す授業の検証である。

### 研究の概要 (第4学年)

・ Unit7 What Do You Want? (Let's Try!2)

1	・ Let's Watch and Think ・ Let's Chant ・ 読み聞かせ (内容を予想させる)
2	・ 読み聞かせ (質問を入れながら聞かせる) ・ カード・ディスティニー・ゲーム ・ Let's Chant ・ Let's Listen1
3	・ 読み聞かせ (果物の順番を考えさせる) ・ Who am I? クイズ ・ Let's Chant ・ Activity1「パフェ作りをしよう」
4	・ 読み聞かせ (内容を変えて聞かせる) ・ おはじきゲーム ・ Let's Listen2
5	・ 読み聞かせ (出てくる動物に着目させる) ・ Let's Chant ・ Activity2「オリジナルピザを作ろう」

- ・ 使用絵本  
「Handa's Surprise」 (Eileen Browne 作)
- ・ 絵本のあらすじ  
ケニアに住んでいる女の子が7種類のおいしい果物を持って友達の所へ出かける。しかし、途中で出会ったお腹を空かせた動物たちのおかげで、びっくりする出来事が起こる。

### 今後の方向性

絵本の読み聞かせを取り入れた授業を行い、児童の事前・事後の意識の変容に加え、絵本の内容の録音を比較することで、児童の英語の発話数の増加や内容の理解が深まった様子を見取っていきたい。

# 研究所各部の紹介

研究所では、研修部・情報部・調査部の3つの部で活動を進めています。

研修部では、年3回の研究所だよりの発行を主とし、教育資料の整理や各種研修会の運営等を行っています。研究所だよりに関するご意見やご感想をお寄せいただければ幸いです。

情報部では、昨年度は、研究所50周年記念誌を発行し、郡内の小・中学校や各教育機関に配付しました。今年度は、地域実践の共有化や校務の効率化を図ることをめざし、HPへのデータベース化や教育資料の作成等を行っています。また、長生教育研究会と連携し、会館をホストとしたオンライン会議のシステムの準備を進めているところです。

調査部では、昨年度は「小学校における外国語活動の実施による成果と外国語教科化への課題」(研究紀要第46集)を発行し、実態と課題を明らかにしました。今年度は、「働き方改革」をテーマに、調査研究を進めていきたいと考えています。

研究所の資料として、多くの学習指導案や研究紀要を寄贈していただき、心よりお礼申し上げます。多くの先生方に研究資料として活用していただいております。その他にも、多くの教育誌も保存しております。今後とも、時代のニーズに応え、情報発信、情報収集の役割を十分に果たせるように活動していきたいと思っております。教育会館にお越しの際には、お気軽にお立ち寄りください。

主事 中舘 武優 (茂原市立南中学校)

# 教育功労表彰

本年度の教育功労等の表彰式において、次の先生方や団体が、日頃の教育活動のご功績を認められ表彰されました。心よりお祝い申し上げます。なお、掲載順につきましては、表彰式の名簿順とさせていただきます。(敬称略)

### ○千葉県教育功労者表彰

#### 〈教育行政の部〉

長南町教育委員会 委員 中村 尚子

#### 〈学校教育の部 個人の部〉

茂原市立茂原小学校 校長 長島 貴浩

#### 〈学校教育の部 団体の部〉

長生村立高根小学校

### ○茂原市教育功労者表彰

茂原市立茂原小学校 校長 長島 貴浩

茂原市立豊岡小学校 校長 深山 博典

茂原市立緑ヶ丘小学校 校長 岡澤 修

茂原市立富士見中学校 校長 狩野 直樹

茂原市立茂原中学校 校長 鈴木 明

茂原市立早野中学校 校長 秋野 兼二

茂原市立豊田小学校 教諭 風戸 ふうさ江

茂原市立二宮小学校 教諭 須賀 俊子

茂原市立茂原小学校 教諭 山本 美枝

茂原市立中の島小学校 教諭 三宅 正治

茂原市立本納小学校 教諭 齊藤 園子

茂原市立富士見中学校 教諭 田邊 幸夫

茂原市立早野中学校 教諭 山田 扶砂子

茂原市立早野中学校 養護教諭 馬場 恵美子

茂原市立豊岡小学校 事務長 大串 孝子